

ホームエレクター ヴィンテージ・クローゼットバー取扱説明書

この度は、ホームエレクター【ヴィンテージ・クローゼットバー】をお買い上げいただきましてありがとうございました。
本製品を安全にお使いいただくために、この説明書をよくお読みいただき、内容をご理解のうえ注意事項を遵守していただくようお願いいたします。

ご使用前に必ずお読みください

- 組み立てる前に、部品の不足・破損がないか必ずご確認ください。
- ※商品には万全を期しておりますが、万一部品が不足・破損していた場合は、組み立てを行わず弊社カスタマーサービスへお問い合わせください。
- ※本製品は、ヴィンテージの風合いを生かした製品です。ザラザラ感・塗装ムラ・まだら模様・色合いが、違う物がございます。製品特性として、接合（溶接）による歪（反り）がフラットバーに発生します。製品の品質、組み立て使用については、問題はございません。
- 組み立ては、この取扱説明書をよくお読みになり手順に従って正しく組み立ててください。
- 誤った組み立ては、破損やケガの原因になります。
- この取扱説明書は組み立て後も保管してください。



警告

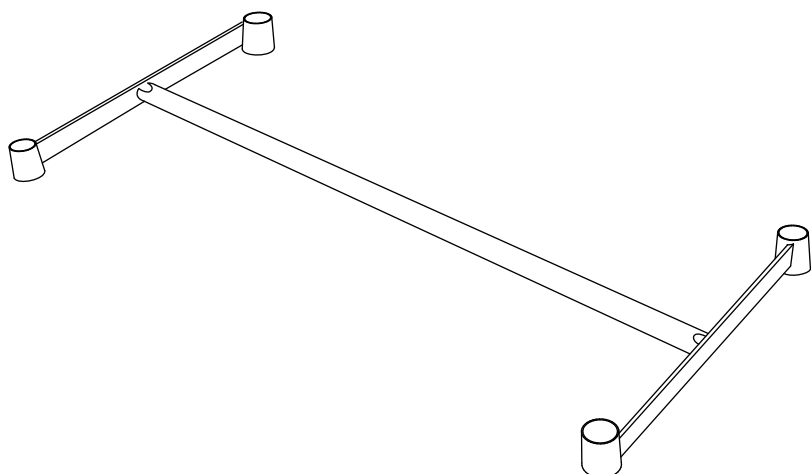
- 吊り下げ耐荷重を超えて物を載せないでください。
吊り下げ耐荷重は一段あたり20kgです。破損やケガを招くおそれがありますので厳守してください。
※荷重については、吊り下げ荷重（均等）使用での耐荷重です。
- パイプにぶらさがったりして遊ばないようにご注意ください。ケガをしたり、破損につながります。



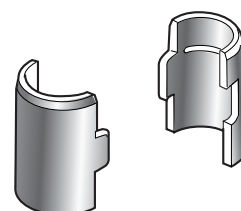
注意

- キャスターを取り付ける場合は、天地に棚板2枚以上ご使用の上、クローゼットバーを組み立ててください。
裏面のページ【完成例】を参考に組み立ててください。
- 傾斜した場所や、下が柔らかい場所など、不安定な場所には設置しないでください。物が落下して破損したり、転倒してケガをするおそれがあります。
- 本製品は常温での屋内仕様となっております。高温、多湿、直射日光の当たる場所、屋外では使用しないでください。
変色・表面が劣化する場合があります。
- テーパーダースリーブがずれたり、棚が水平になっていないなど、組み立てが不十分な場合はそのまま使用せず、もう一度組み立てし直してください。
- 粘着テープ等を貼り付けると表面塗装が剥がれる場合があります。
- 刃物や先の鋭利な物（ハンガー）で突いたりすると傷がつきます。
- 商品の改造は機能低下の原因となりますので、絶対におやめください。
- キャスターの移動の際は、倒れやすい物や滑りやすい物を取り除いてください。また、急激な移動は、物がずれたり落下してケガの原因になります。
- 棚位置の高さを変更する際は、上に載っている物をすべて下ろしてから行ってください。物品の破損やケガの原因となります。
- 清掃は薄めた中性洗剤を含んだ布を固く絞って、軽く拭いてください。
シンナー等の有機溶剤の使用は、塗装表面を侵すおそれがあるため、絶対に使用しないでください。
- 水分は付着した場合、シミ、錆などの原因となりますので、必ず乾いた布で拭き取ってください。

構成部品



- ヴィンテージ・クローゼットバー 1枚
※ザラザラ感・塗装ムラ・まだら模様・色合いが、違う物がございます。



- テーパーダースリーブ/4組

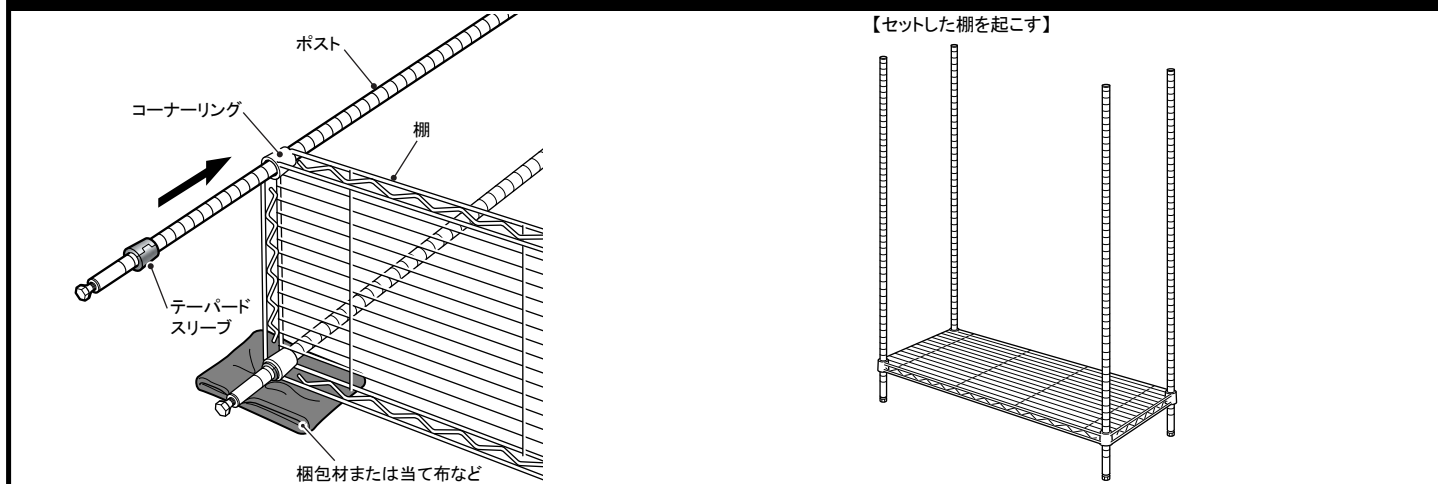
■ 組み立てかた

● 組み立てにご用意いただく物

・プラスチックハンマーまたは木槌、当て布

(金属製ハンマーを代用を使用する場合は、傷、破損を防止するために必ず当て布・当て木などを施し、製品を直接たたかないでください。)

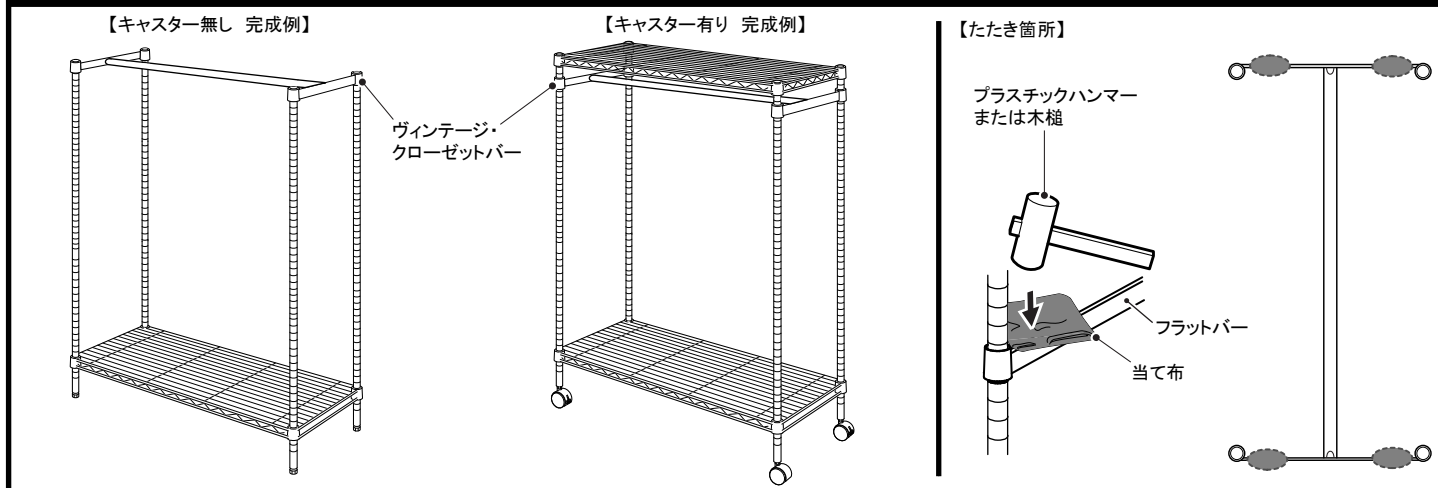
棚を最下段に取り付ける場合



最下段へ取り付ける場合は、必ず梱包材や厚い布などを棚の下に敷いてください。

【ご注意】 棚が床面とこすれ、傷の原因になりますので、梱包材または当て布などを使用して必ず保護してください。

棚を固定する場合



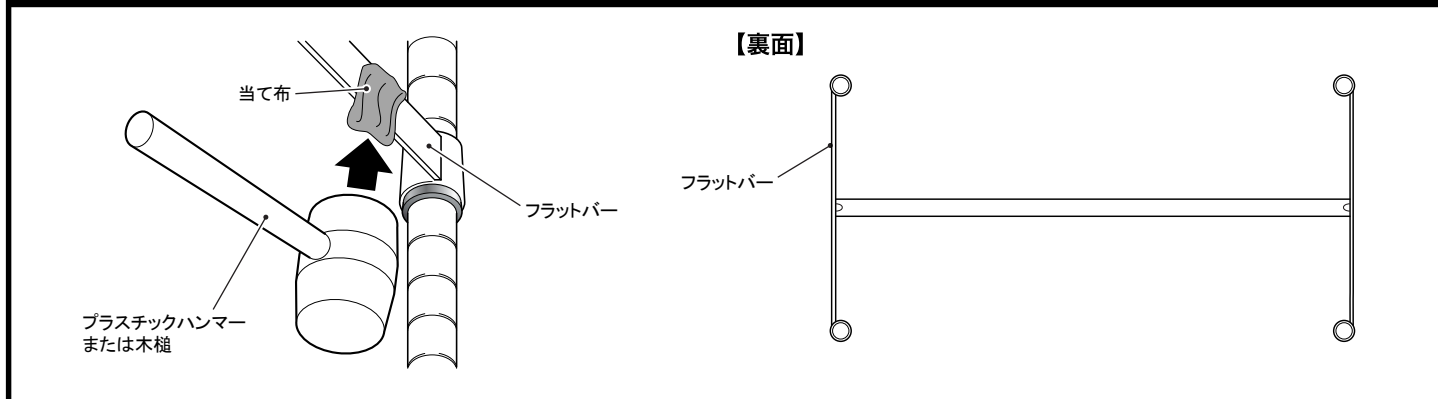
最下段をセットしたら棚を起し、ウィンテージ・クローゼットバーを取り付けます。

キャスターを取り付ける場合は、最上段へ棚を取り付けてください。

イラスト【たたき箇所】の ● 部を目安に、必ず厚めの布等を当ててプラスチックハンマーまたは木槌で軽くたたいて固定してください。

【ご注意】 ウィンテージ・クローゼットバーのフラットバーを直接たたくと傷がつくおそれがあります。

取りはずしのご注意



ウィンテージ・クローゼットバーを取りはずす場合は、厚めの布等を当てて裏面フラットバー(コーナーリングに近い部位)をプラスチックハンマーまたは木槌でたたきます。水平を保ちながら少しずつ均等に上へあげてください。

【ご注意】 フラットバーを強くたたきすぎると破損の原因になります。